

# SPARC Enterprise M3000/M4000/ M5000/M8000/M9000 サーバー

XCP Version 1115 用プロダクトノート

---

Copyright © 2007, 2014 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ, AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

---

# 目次

---

はじめに .....	5
関連ドキュメント .....	5
フィードバック .....	6
Oracle サポートへのアクセス .....	6
<b>1. はじめに .....</b>	<b>9</b>
ハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアの互換性 .....	9
Oracle Solaris パッチの入手 .....	10
<b>2. XCP 1115 ファームウェアに関する情報 .....</b>	<b>11</b>
M8000/M9000 サーバーの RAID 対応 IOUA カードの XCP サポート .....	11
XCP のアップグレードおよびダウングレード .....	11
XCP の互換性 .....	11
このリリースへのアップグレード .....	11
OpenBoot PROM ファームウェアの更新 .....	11
XCP 1050 より前のバージョンからのアップグレード .....	12
XCP 1082 より前のバージョンからの M8000/M9000 サーバーのアップグ レード .....	12
特定タイプの XCP アップグレード後に必要となるドメイン再起動 .....	12
XCP ファームウェアのダウングレード .....	12
XCP の機能の問題と制限事項 .....	12
XCP の既知の問題 (CR) と回避方法 .....	14
<b>3. ソフトウェアに関する情報 .....</b>	<b>15</b>
ソフトウェアの互換性 .....	15
Capacity on Demand (COD) .....	15
XCP 1101 での COD の変更 .....	15
XCP 1102 での COD の変更 .....	16
Sun Flash Accelerator F20 PCIe カード .....	16
リモート初期ログイン .....	16
障害管理 .....	17
システム内の縮退メモリの識別 .....	17
▼ システム内の縮退メモリを識別する .....	17
Sun Java Enterprise System .....	17
Web Console SMF サービスの有効化 .....	18
▼ Web Console SMF サービスを有効にする .....	18
ソフトウェア機能の問題と制限事項 .....	18
Oracle Solaris OS に関する問題 (CR) と回避方法 .....	19
サポートされているすべての Oracle Solaris リリースに関する既知の問題 .....	19
Oracle Solaris 10 8/11 で修正された問題 .....	22
Oracle Solaris 10 9/10 で修正された問題 .....	22
Oracle Solaris 10 10/09 で修正された問題 .....	23
Oracle Solaris 10 5/09 で修正された問題 .....	24

Oracle Solaris 10 10/08 で修正された問題 .....	25
Oracle Solaris 10 5/08 で修正された問題 .....	28
Oracle Solaris 10 8/07 で修正された問題 .....	33
ソフトウェアドキュメントの更新 .....	36
マニュアルページの更新 .....	36
ソフトウェアマニュアルの更新 .....	36
<b>4. ハードウェアに関する情報 .....</b>	<b>39</b>
重要な注意点、問題、および回避方法 - すべての M シリーズサーバー .....	39
ハードウェアの互換性 .....	39
WAN ブートサーバーからのブート .....	39
単一の J4200 JBOD ストレージレイからの複数のシステムのブート .....	39
USB メモリーを使用する場合の注意事項 .....	40
ハードウェアの機能の問題と制限事項 .....	40
重要な注意点、問題、および回避方法 - M3000 サーバーのみ .....	40
Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ .....	40
MBU_A 上に取り付けられたドーターカード .....	41
ハードウェアの機能の問題と制限事項 .....	41
重要な注意点、問題、および回避方法 - M4000/M5000 および M8000/M9000 サーバーのみ .....	41
▼ M4000/M5000 サーバーの場合、CPUM に Capacity On Demand (COD) のライセンスが与えられているかどうかを判断する .....	41
▼ M8000/M9000 サーバーの場合、CPU に COD のライセンスが与えられ ているかどうかを判断する .....	42
M9000 サーバーの設置エリア .....	42
M9000 サーバー AC セクションの警告ラベル .....	44
RAID 対応 IOUA .....	45
DVD ドライブと <i>cfgadm</i> .....	45
F20 PCIe カード .....	46
Sun Crypto Accelerator 6000 カード .....	46
U320 PCIe SCSI カード .....	46
QLogic PCIe カードのパッチ .....	46
Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ .....	46
ハードウェアの機能の問題と制限事項 .....	47
M3000 サーバーのハードウェアドキュメントの更新 .....	47
M4000/M5000 サーバーのハードウェアドキュメントの更新 .....	47
M8000/M9000 サーバーのハードウェアドキュメントの更新 .....	48

# このドキュメントの使用法

---

このプロダクトノートには、Oracle Corporation および富士通株式会社の SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー (M シリーズサーバー) に関する重要な最新情報が記載されています。ここでは、ハードウェア、ソフトウェア、ファームウェア、および、XCP 1115 ファームウェアリリースに関連するドキュメントが記載されています。

一部のサーバー名およびドキュメント名は、読みやすいように省略されています。たとえば、M9000 サーバーと記載されている場合、正式な製品名は SPARC Enterprise M9000 サーバーです。また、『XSCF リファレンスマニュアル』と記載されている場合、正式なドキュメント名は『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF リファレンスマニュアル』です。

このドキュメントに加えて、サーバーの概要ガイド、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバードミニストレーションガイド』、および『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』も最低限お読みになることをお勧めします。

サーバーのファームウェアに適用されるプロダクトノート、および最新のファームウェアリリースに適用されるプロダクトノートを常に確認してください。

- [5 ページの「関連ドキュメント」](#)
- [6 ページの「フィードバック」](#)
- [6 ページの「Oracle サポートへのアクセス」](#)

## 関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
Sun Oracle ソフトウェア関連マニュアル (Oracle Solaris OS など)	<a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>
Oracle M シリーズサーバードキュメント	<a href="http://www.oracle.com/technetwork/documentation/sparc-mseries-servers-252709.html">http://www.oracle.com/technetwork/documentation/sparc-mseries-servers-252709.html</a>

次の表は、M シリーズの関連ドキュメントの一覧です。特に説明のないかぎり、すべてオンラインのみです:

SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーの関連ドキュメント
『SPARC Enterprise M3000 サーバはじめにお読みください』 (印刷ドキュメント)
『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバはじめにお読みください』 (印刷ドキュメント)
『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバはじめにお読みください』 (印刷ドキュメント)
『SPARC Enterprise M3000 サーバー製品概要』
『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバー製品概要』
『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバー製品概要』

---

**SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーの関連ドキュメント**

---

SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーの法律および安全性に関する重要情報 (印刷ドキュメント)

SPARC Enterprise M3000 サーバーの安全およびコンプライアンスに関するガイド

『SPARC Enterprise M4000/M5000 Servers Safety and Compliance Guide』

『SPARC Enterprise M8000/M9000 Servers Safety and Compliance Guide』

PCI ボックスの安全およびコンプライアンスに関するガイド

SPARC Enterprise M4000 サーバーの開梱ガイド (印刷ドキュメント)

SPARC Enterprise M5000 サーバーの開梱ガイド (印刷ドキュメント)

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーの開梱ガイド (印刷ドキュメント)

『SPARC Enterprise M3000 サーバインストールレーションガイド』

『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバインストールレーションガイド』

『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバインストールレーションガイド』

『SPARC Enterprise M3000 サーバサービスマニュアル』

『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバサービスマニュアル』

『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル』

PCI ボックスの設置およびサービスに関するマニュアル

『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバアドミニストレーションガイド』

『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』

『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』

『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ Dynamic Reconfiguration (DR) ユーザーズガイド』

『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバキャパシティオンデマンド (COD) ユーザーズガイド』

『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバプロダクトノート』 (XCP 1100 版以降)

『Sun SPARC Enterprise M3000 サーバプロダクトノート』 (XCP 1100 版以前)

『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバプロダクトノート』 (XCP 1100 版以前)

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート』 (XCP 1100 版以前)

『PCI ボックスプロダクトノート』

『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ用語集』

---

## フィードバック

このドキュメントおよびその他の Oracle ドキュメントに関するご意見、ご要望がございましたら、次の Web サイトからお問い合わせください:

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

コメントにはドキュメントのタイトルとパート番号を記載してください。このドキュメントは次のとおりです:

『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバプロダクトノート』、パート番号 E40728-03。

## Oracle サポートへのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support を通じて電子サポートにアクセスできます。詳細については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc{ENT:#x0026}jid=info>

または聴覚に障害をお持ちの場合は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc{ENT:#x0026}id=trs> を参照してください。

また、Oracle のお客様は、Oracle オンラインサポートコミュニティで Oracle 製品の専門家や同業者と協力することもできます。Oracle の製品、サービス、および関連テクノロジーについて回答やサポートを得たり、ベストプラクティスを共有したりするには、<http://communities.oracle.com> にアクセスしてください。SPARC Enterprise Mx000 サーバーに固有のトピックについては、<http://communities.oracle.com> にアクセスしてください。



---

# 1

・・・第 1 章

## はじめに

---

このドキュメントでは、M シリーズ (M3000/M4000/M5000/M8000/M9000) サーバーでサポートされる XCP 1115 ファームウェアリリースについて説明します。特に説明のないかぎり、このドキュメントの情報は、これらのすべてのサーバーに適用されます。

この章では、このファームウェアリリースの時点のファームウェア、ハードウェア、およびソフトウェアに適用される重要情報について説明します。その他のセクションでは、ファームウェア、ソフトウェア、またはハードウェアの制限事項について説明します。



---

### 注記

Oracle ファームウェアのダウンロードサイトを常にチェックし、利用可能な最新のファームウェアおよび関連する README ファイルを確認してください。

---

プロダクトノートの方が発行頻度が高いため、通常はプロダクトノートの内容がその他の製品ドキュメントの内容に優先します。ただし、内容に矛盾がある場合は、それぞれのドキュメントのタイトルページにある発行日を比較してください。プロダクトノートを含む、印刷されたドキュメントよりもオンラインのマニュアルページの方が頻繁に更新される場合があります。

## ハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアの互換性

---



### 注意

SPARC64 VII+ プロセッサなどのプロセッサを取り付ける前に、サーバーがそのプロセッサタイプの要件をすべて満たしていることを確認してください。このような要件には、最低限必要な XCP ファームウェア、Oracle Solaris OS バージョン、および必要なすべてのパッチが含まれます。

---

Oracle Solaris および XCP に関する最新の情報については、次で確認できます：

<http://myoraclesupport.com>

**XCP の互換性情報**については、MOS 記事 ID 1002631.1、*Sun SPARC Enterprise M3000, M4000, M5000, M8000, M9000 XSCF Control Package (XCP) ファームウェアイメージソフトウェアバージョンマトリクスの情報*を参照してください。このマトリクスには、XCP 構成およびダウンロードパッケージがリストされています。

**Oracle Solaris の互換性情報**については、MOS 記事 ID 1145383.1、*SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバマトリクス (ハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェア)*を参照してください。

## Oracle Solaris パッチの入手

パッチ要件および特別なインストール手順については、必ずパッチの README を参照してください。各パッチの 2 桁のサフィックスは、パッチの最小リビジョンレベルを表しています。最新のパッチリビジョンについては、<http://myoraclesupport.com> を参照してください。パッチは、記載されている順序で適用します。

Oracle Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールするか、または最新の必須パッチのセットでシステムを更新できます。Sun Connection Update Manager の詳細については、次の *Sun Update Connection System の管理ガイド*を参照してください:

<http://docs.oracle.com/cd/E19107-01/>

インストール情報と README ファイルは、パッチのダウンロードに含まれています。

システムを登録し、Oracle Sun Connection Update Manager を使用して最新の Oracle Solaris OS パッチを入手するには、次の 2 つの方法があります:

- Update Manager GUI を使用してパッチを入手する。詳細については、前述のリンクにある Sun Update Connection のドキュメントを参照してください。
- smpatch(1M) コマンドを使用してパッチを入手する。詳細については、smpatch(1M) のマニュアルページ、またはご使用のバージョンの Solaris OS のリファレンスマニュアル集を参照してください。



---

### 注意

Oracle Solaris 10 11/06 OS を実行する SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの場合、Sun Connection Update Manager を使用する前に、パッチ 123003-03 および 124171-06 をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、<http://myoraclesupport.com> からダウンロードできます。Oracle Solaris 10 11/06 では SPARC64 VII プロセッサはサポートされません。

---

## XCP 1115 ファームウェアに関する情報

---

この章では、このリリースの XCP ファームウェアの更新内容およびその他注意すべき変更について説明します。

### M8000/M9000 サーバーの RAID 対応 IOUA カードの XCP サポート

XCP Version 1111 は、M8000/M9000 サーバーの RAID 対応 IOUA カードをサポートする最初の XCP リリースでした。システム表示では、RAID 対応 IOUA カードを「タイプ 2」と識別します。

これらのカードの使用には、特定の Oracle Solaris OS およびパッチ要件があります。詳細は、My Oracle Support (MOS) にログインし、ナレッジベースの *MOS Doc ID 1401119.1* を検索してください。

<https://supporthtml.oracle.com>

### XCP のアップグレードおよびダウングレード

#### XCP の互換性

最新の XCP の互換性については、9 ページの「ハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアの互換性」を参照してください。

#### このリリースへのアップグレード

ファームウェアのアップグレードについては、『*SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド*』を参照してください。



#### 注記

XCP ファームウェアをアップグレードしたら、`rebootxscf(8)` コマンドを使用して XSCF をリセットします。

---

#### OpenBoot PROM ファームウェアの更新

OpenBoot PROM (OBP) ファームウェアの更新をターゲットドメインで完了するには、更新の完了後できるだけ早くドメインを再起動します。

## XCP 1050 より前のバージョンからのアップグレード

サーバーで XCP 1050 より古いファームウェアを実行している場合は、この XCP リリースに直接アップグレードすることはできません。最初に、中間バージョンである 1050 から 1070 (1050 と 1070 を含む) の XCP にアップグレードする必要があります。以前の XCP リリースへのアクセスについては、Oracle の担当者にお問い合わせください。



### 注記

admin という名前のアカウントがある場合は、XCP 1050 以降に更新する前に、**deleteuser(8)** コマンドを使用してそれらのアカウントを削除します。admin アカウント名は、XCP 1050 以降で予約されています。

## XCP 1082 より前のバージョンからの M8000/M9000 サーバーのアップグレード

M8000/M9000 サーバーで XCP 1082 より古いファームウェアを実行している場合は、アクティブ XSCF から **rebootxscf(8)** コマンドを実行し、この XCP リリースをアップグレードする前に、アクティブ XSCF とスタンバイ XSCF の両方をリセットします。

### 特定タイプの XCP アップグレード後に必要となるドメイン再起動

XCP 1050 と 1070 の間 (1050 と 1070 を含む) の XCP 版からの更新の間に動作中であったドメインで、動的再構成 (DR) を実行して SPARC64 VII プロセッサを追加または交換する場合は、OpenBoot PROM ファームウェアを更新する必要があります。OpenBoot PROM ファームウェアは、XCP を更新してドメインを再起動すると更新されます。このため、SPARC64 VII プロセッサを追加したか交換したかにかかわらず、ファームウェアを最新の XCP リリースに更新したあとは、すべてのドメインを再起動します。

## XCP ファームウェアのダウングレード

XCP ファームウェアを以前のリリースにダウングレードすると、最新のリリースで提供される改善および修正点が削除され、依存関係の不一致によりシステム障害が発生する可能性があります。ただし、XCP リリースのダウングレードが必要になる場合は、あとで次のコマンドを実行し、以前の形式の監査ログを消去します:

```
XSCF> restoredefaults -c xscfu
```

## XCP の機能の問題と制限事項

このセクションでは、XCP ファームウェアの既知の問題について説明します。



## 注記

サービスプロセッサ (SP) を時間情報プロトコル (NTP) サーバーとして使用しないでください。独立した NTP サーバーを使用することによって、SP とドメインで時間の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られます。NTP の詳細は、次のサイトにあるシステムクロックの制御および同期のための NTP の使用に関する Sun Blueprint のドキュメントを参照してください: <https://wikis.oracle.com/display/CommSuite/Messaging+Server+NFS+Guidelines+and+Requirements>

表2.1 XCP の機能の問題と制限事項

M3000	M4000	M8000	説明
	M5000	M9000	
○	○	○	adm、admin、apache、bin、daemon、default、ldap、nobody、ntp、operator、proxyuser、root、rpc、rpcuser、および sshd のユーザーアカウント名は、システム用に予約されているため使用できません。16 ページの「リモート初期ログイン」を参照してください。
○	○	○	XSCF ユーザーアカウントのユーザー名を LDAP ユーザー名と同じ名前にすることはできず、XSCF ユーザーアカウント番号 (UID) を LDAP UID 番号と同じ番号にすることはできません。
○	○	○	XSCF を使用し、XCP をインポートまたはファームウェアを更新する場合、Web ブラウザ上に Web セッション ID エラーが表示されることがあります。また、Autologout 設定でタイムアウト時間を 30 分を超えて指定すると、内部サーバーエラーが表示されることがあります。XSCF Web に再接続するには、現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開きます。
○	○	○	XSCF Web を使用する前に、ポップアップブロックを無効にして、ブラウザにインストールされている検索ツールなどのプラグインを削除してください。
○	○	○	XSCF-LAN は自動ネゴシエーションに準拠しています。XSCF-LAN と接続するネットワークデバイスは、自動ネゴシエーションモードに設定してください。これを行わず、XSCF-LAN とネットワークデバイス (IEEE802.3 の規約に従い全二重モードで固定) を接続した場合、XSCF-LAN は半二重モードで通信し、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信エラーが発生したりすることがあります。
	○	○	この XCP リリースの場合、XSCF ブラウザユーザーインターフェース (XSCF Web) は、PCI ボックス管理機能をサポートしていません。
	○	○	DR と ZFS ファイルシステムの相互運用性の問題のため、M4000/M5000 サーバーは UFS ファイルシステムを使用してプレインストールされ出荷されます。21 ページの「CR 6660168」を参照してください。
○	○	○	XCP 1093 リリースは、可観測性機能を有効にしたプロセッサグループで Oracle Solaris 10 9/10 を実行するドメインをサポートする最初の XCP リリースでした。詳細は、Oracle Solaris 10 9/10 OS プロダクトノートを参照してください。

## XCP の既知の問題 (CR) と回避方法

このセクションでは、重要な CR および (利用できる場合は) 推奨される回避方法について説明します。

表2.2 XCP の問題と回避方法

CR ID	M3000	M4000	M8000	説明	回避方法
				M5000	M9000
7009084	o	o		<b>setpasswordpolicy -r</b> が 0 に設定されている場合、既存の XCSF ユーザーはパスワードを変更できず、エラーメッセージ <b>password: Operation failed</b> が表示されます。	コマンド <b>setpasswordpolicy -r 0</b> を実行しないでください。
7018644	o	o		ドメインまたは XSCF がリポートされるたびに、ドメインで REPAIRED/RESOLVED とマークされた障害が XSCF に再送信されます。XSCF が交換されていない場合、これは問題ではなく、新たな障害も発生していません。ただし、M4000/M5000 サーバーの XSCF または M3000 サーバーの MBU が交換された場合は、解決された問題に対して新たな障害が発生している可能性があります。	XSCF または MBU の交換後に新たな障害が発生した場合は、 <b>fmdump -V</b> 出力で <b>solaris -u uid</b> をチェックし、障害が本物かどうかを確認してください。
7087056	o	o		<b>setssh -c genhostkey</b> で XSCF ホスト公開鍵を再生成すると、XSCF コマンドの実行時に、接続されているその他の XSCF ユーザーに「アクセス権が拒否されました」のエラーが表示される場合があります。	XSCF ホストの鍵の生成後に XSCF のリポートが必要です。
7145253	o	o		XSCFU が Ops Center で監視されている場合、サービスプロセッサがリセットされるか、予期せずにフェイルオーバーすることがあります。また、部品が障害のある部品として誤ってマークされることがあります。	XSCFU を監視している Ops Center を無効にしてください。

## ソフトウェアに関する情報

---

この章では、この XCP ファームウェアリリースに関連する Oracle Solaris ソフトウェアの問題と回避方法について説明します。

サーバーには、出荷時に Oracle Solaris オペレーティングシステムと Java Enterprise System ソフトウェアがインストールされています。

### ソフトウェアの互換性

最新の Oracle Solaris の互換性については、[9 ページの「ハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアの互換性」](#)を参照してください。

### Capacity on Demand (COD)

Capacity on Demand (COD) 機能は、このリリースでは変更されていません。このセクションの情報は、これより前の XCP リリースから更新するユーザーのみを対象としています。

XCP 1100 ファームウェアリリースでは、COD アクティベーション履歴を表示または転送できる **showcodactivationhistory**(8) コマンドのサポートが導入されました。

### XCP 1101 での COD の変更

XCP 1101 ファームウェアでは、Capacity on Demand (COD) 機能の新リリースが導入されました。『*Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバキャパシティオンデマンド (COD) ユーザーズガイド*』の最新版を参照してください。変更内容は次のとおりです：

- Oracle の E-Delivery プロセスによって COD 鍵を取得するための、簡素化された新しいプロセスのサポートが追加されています。COD データベースの旧式の鍵は、新しい形式の鍵が存在する場合でも、引き続き機能します。



#### 注記

新しい形式の鍵は、1101 より前のバージョンの XCP では機能しません。

- サーバーの各シャーシのホスト ID に割り当てられていない COD 鍵のサポートが追加されています。ただし、COD アクティベーションパーミットを購入した場合は、購入したパーミットの対象のサーバーでしか使用できません。

- ・ヘッドルーム機能のサポートは終了しました。ヘッドルームで動作している COD プロセッサがある場合は、違反しているのと同数の COD プロセッサをドメインからアンインストールするか、購入しないまま使用している COD リソース用に、COD ハードウェアアクティベーションオプションを購入してインストールします。次に、**setcod 0** を実行してヘッドルームを 0 に設定し、ドメインの電源を切断してから投入し、許可された COD リソースのみがインストールされていることを確認します。

## XCP 1102 での COD の変更

### COD ヘッドルーム

XCP 1101 ファームウェアでの Oracle M シリーズサーバーのヘッドルーム機能のサポートは終了しました。XCP 1102 ファームウェア以降は、0 以外のヘッドルーム値は COD 違反になります。ヘッドルームで動作している COD プロセッサがある場合は、違反しているのと同数の COD プロセッサをドメインからアンインストールするか、購入しないまま使用している COD リソース用に、COD ハードウェアアクティベーションオプションを購入してインストールします。次に、**setcod 0** を実行してヘッドルームを 0 に設定し、ドメインの電源を切断してから投入し、許可された COD リソースのみがインストールされていることを確認します。

### COD 警告および違反に関するメッセージ

XCP 1102 ファームウェア以降は、サーバーのアップグレード時に COD ヘッドルーム値が 0 より大きいと、COD ソフトウェアにより自動的に 0 にリセットされ、その旨の警告メッセージがモニターログに記録されます (**showlogs(8)** で表示可能)。ただし、XSCF を初期化するたびに、警告が再度表示されます。以降の警告を回避するには、**setcod 0** を実行してヘッドルームを 0 に固定します。また、電源投入されたドメインで COD プロセッサを使用するために、サーバーがヘッドルームを使用している場合は、COD 違反が記録され、**showcod(8)** に VIOLATION ステータスが表示されます。警告および違反のメッセージを停止するには、前述の COD ヘッドルームで説明されている手順を実行します。

## Sun Flash Accelerator F20 PCIe カード

XCP 1102 ファームウェアでは、CR 6999483 の修正が導入され、Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードのアラームのしきい値が 2 年から 3 年に変更されています。M4000/M5000 または M8000/M9000 サーバーに F20 カードがあり、古いバージョンの XCP ファームウェアを実行している場合は、サーバーを最新のファームウェアリリース (XCP 1102 ファームウェア以上) にできるだけ早く更新してください。

## リモート初期ログイン

標準的なデフォルトのログインのほかに、M シリーズサーバーでは、**admin** と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されており、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能です。admin ユーザー権限は **useradm** 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名/パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 **admin** としてログインすることはできません。一時 **admin** アカウントにパスワードはなく、またパスワードをこのアカウント用に追加することもできません。

デフォルトのユーザーまたは一時 **admin** としてログインしたユーザーが、有効なパスワードと権限を持つ最初のユーザーを正常に追加すると、一時 **admin** アカウントは無効になります。

また、adm、admin、apache、bin、daemon、default、ldap、nobody、ntp、operator、proxyuser、root、rpc、rpcuser、および sshd のユーザーアカウント名は、システム用に予約されているため使用できません。

## 障害管理

障害管理ソフトウェアは、SPARC64 VII+ プロセッサと SPARC64 VII プロセッサを区別しません。たとえば、どちらのプロセッサでも、ereport (エラーレポート)/fault (障害) イベント文字列では SPARC64 VII と表示されます:

```
fault.chassis.SPARC-Enterprise.cpu.SPARC64-VII.core.ce
```

ただし、障害の FRU フィールドには正しいパート番号が含まれるため、プロセッサタイプを識別できます。例:

```
XSCF> fmdump -v
Nov 19 00:58:18.6244 1147afbe-d006-4d46-8cf2-d9b6e5a893dc SCF-8007-AR
100% fault.chassis.SPARC-Enterprise.cpu.SPARC64-VII.way.ce

Problem in: hc:///chassis=0/cmu=1/cpu=0
Affects: hc:///chassis=0/cmu=1/cpu=0
FRU: hc:///product-id=SPARC Enterprise M8000:chassis-id= \e
2030638006:server-id=aaa-dc1-3-sf0:serial=PP1032026V:part=CA06620-D061 B1 \e
371-4929-02:revision=0a01/component=/CMU#1/CPUM#0
Location: /CMU#1/CPUM#0
```

## システム内の縮退メモリーの識別

### ▼ システム内の縮退メモリーを識別する

1. XSCF にログインします。
2. 次のコマンドを入力します:

```
XSCF> showstatus
```

次の例では、マザーボードユニット上の DIMM 番号 0A に縮退メモリーがあることがわかります

```
XSCF> showstatus
MBU_A Status: Normal;
MEM#0A Status:Degraded
```

## Sun Java Enterprise System

Sun Java Enterprise System ソフトウェアは、ソフトウェア投資を最大限に活用するソフトウェアサービスとライフサイクルサービスの包括的なセットです。これには、ご使用のサーバーに必須のパッチが含まれていない場合があります。



## 注記

Java Enterprise System 5 Update 1 をシステムにインストールすることによって発生する問題のために、Web Console SMF サービスを有効にする必要が生じる場合があります。

## Web Console SMF サービスの有効化

### ▼ Web Console SMF サービスを有効にする

- 端末に root としてログインし、サービスを有効にします。

```
# svcadm enable svc:/system/webconsole:console
```

ソフトウェアの再読み込みが必要になった場合のダウンロードおよびインストール方法については、次の Web サイトにアクセスしてください：

<http://myoraclesupport.com>

ソフトウェアの最新コピーをダウンロードした場合は、使用しているサーバーに必要なパッチがそのソフトウェアに含まれていないことがあります。ソフトウェアのインストール後、必須パッチがすべてインストールされていることを確認し、インストールされていない場合はインストールします。

## ソフトウェア機能の問題と制限事項

このセクションでは、このリリースのソフトウェア機能の問題と制限事項について説明します。

表3.1 ソフトウェア機能の問題と制限事項

M3000	M4000 M5000	M8000 M9000	問題
○	○	○	リモートキャビネットインタフェース (RCI) 機能は、Oracle M シリーズサーバーではサポートされていません。
	○	○	M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーで、バックアップ XSCF との間の XSCF のフェイルオーバー後に DR 操作ができない場合があります。このまれなケースは、以前は CR 6588650 として指定されていました。回避方法はありません。
○	○	○	<b>setsnmp(8)</b> コマンドおよび <b>showsnmp(8)</b> コマンドが、許可の失敗をユーザーに通知しません。このような障害が発生した場合、SNMP トラップホストが動作していることを確認し、正しいユーザー名を使用してコマンドを再実行してください。
	○		消費電力を表示する次の機能は、M4000/M5000 サーバーではサポートされていません。表示される値はすべて無効です： <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>showenvironment(8)</b> コマンドの <b>power</b> オペランド。</li> <li>• XSCF Web。</li> </ul>
○	○	○	<b>settimezone -c adddst</b> コマンドで、タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前に 8 文字以上を設定した場合、 <b>showlogs</b> コマンドを実行すると、セグメンテーションの障害が発生し、エラーになります。[CR 6789066]。

M3000	M4000	M8000	問題
	M5000	M9000	
			回避方法: タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前は、7 文字以下で指定します。
o			M3000 サーバーは PCI ボックスをサポートしていません。
o	o	o	オンボード SAS/LSI コントローラを使用するハードウェア RAID ボリュームの作成に <b>raidctl(1M)</b> コマンドを使用できるのは、SPARC64 VII+ (2.86 GHz) プロセッサ搭載の M3000 サーバーのみです。
			すべての M シリーズサーバーで、 <b>raidctl(1M)</b> コマンドを使用したディスク/コントローラのステータス表示がサポートされており、システムに取り付けられている任意の PCI ホストバスアダプタ (HBA) での使用がサポートされています。
			RAID 作成の制限事項は、以前は CR 6723202 として指定されていました。回避方法はあります。

## Oracle Solaris OS に関する問題 (CR) と回避方法

このセクションでは、発行時点で判明している Oracle Solaris OS に関する問題について説明します。次の表に、Oracle Solaris OS で発生する可能性のある問題を示します (一部、使用リリースによって異なります)。

### サポートされているすべての Oracle Solaris リリースに関する既知の問題

19 ページの表 3.2 に、任意の Oracle Solaris リリースで発生する可能性のある Oracle Solaris OS の問題を示します。ドメインが最新の Oracle Solaris リリースを実行していない場合は、使用中のリリースよりも新しいリリースで修正されている CR (以降の各表を参照) にも留意してください。

表3.2 Oracle Solaris の既知の問題と回避方法

CR ID	M3000	M4000	M8000	説明	回避方法
		M5000	M9000		
4816837	o	o	o	中断状態で SP DR のパラレルホットプラグ操作を実行したときに、システムがハングアップします。	回避方法はあります。
6459540	o	o	o	M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーに接続された DAT72 内蔵テープドライブが、テープの処理中にタイムアウトすることがあります。  また、デバイスがシステムに QIC ドライブとして識別されることもあります。	次の定義を <code>/kernel/drv/st.conf</code> s に追加してください:  <pre>tape-config-list= "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE _DAT DAT72-000", "SEAGATE _DAT DAT72-000"; SEAGATE _DAT DAT72-000=1,0x34,0,0x9639, 4,0x00,0x8c,0x8c 0x8c,3;</pre> SEAGATE DAT と DAT72-000 の間には半角スペースが 4 つ必要です。

CR ID	M3000	M4000	M8000	説明	回避方法
	M5000	M9000			
6522017	o	o		Oracle ZFS ファイルシステムを使用しているドメインは、DR を使用できません。	ZFS ARC の最大サイズを小さくしてください。詳細については、認定保守担当者にお問い合わせください。
6531036	o	o		boot net によるインストール後に、エラーメッセージ network initialization failed が繰り返し表示されます。	回避方法はありません。
6532215	o	o		ドメインのブート時に volfs や dscp サービスが失敗することがあります。	サービスを再起動してください。この問題を回避するには、次のコマンドを実行してください。  # svccfg -s dscp setprop ¥  start/timeout_seconds=count: 300  # svccfg -s volfs setprop ¥start/ timeout_seconds=count: 300  # svcadm refresh dscp  # svcadm refresh volfs
6588650	o	o		M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーで、バックアップ XSCF との間 の XSCF のフェイルオーバー後に DR 操作ができない場合があります。	回避方法はありません。
6589644		o		<b>addboard(8)</b> コマンドでシステムボードが追加されたあと、M8000/M9000 サーバー上で XSCF の切り替えが発生 したときに、コンソールが使用できなくな ります。	<b>CTRL-q</b> を押して回復します。
6592302	o	o		DR 操作が失敗すると、メモリーが一部 未構成のままになります。	<b>addboard -d</b> コマンドを使用してボ ードをドメインに戻すことによって、回復で きる場合があります。それ以外の場合 は、 <b>deleteboard(8)</b> を再実行してくだ さい。
6611966	o	o		<b>deleteboard(8)</b> および <b>moveboard(8)</b> 操作が失敗すること があります。ドメインのメッセージの例:  drmach: WARNING: Device driver failure: /pci dcs: <xxxx>  config_change_state:  ハードウェア固有の障害:	DR 操作を再実行してください。

CR ID	M3000	M4000	M8000	説明	回避方法
	M5000	M9000			
				unconfigure SB1: Device driver failure: /pci	
6660168	o	o		21 ページの「CR 6660168」を参照してください。説明が長くなるため、この表には記載していません。	
6674266	o	o		この CR は CR 6611966 と重複しています。	
6745410	o	o		システムをブートしないようにする Kadb オプションが、ブートプログラムで無視されます。	
7009469	o			<b>raidctl(1M)</b> コマンドを使用して RAID 構成を作成すると、最初のプロセスで警告メッセージが生成されます。その後の RAID 構成では、生成されません。	ありません。
7135497			o	RAID 対応 IOUA カードを搭載し、Oracle Solaris 11 を実行しているシステムで、 <b>raidctl -d</b> を使用して RAID ボリュームを削除すると、 <b>format</b> ユーティリティでディスクが表示されません。	<b>cfgadm(1M): cfgadm -c unconfigure cn</b> を実行します (ここでは、 <b>cn</b> はコントローラ番号です)。

## CR 6660168

ドメイン上で `ubc.piowbeue-cpu` エラーが発生すると、Oracle Solaris Fault Management `cpumem-diagnosis` モジュールが失敗し、FMA サービスが中断することがあります。これが発生すると、コンソールログに次の例のように出力されます:

```
SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor
EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008
PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002,
HOSTNAME: <hostname>
SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0
EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1-cb03a7dd77e3
DESC: A Oracle Solaris Fault Manager component has experienced
an error that required the module to be disabled. Refer to
http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information.
AUTO-RESPONSE: The module has been disabled. Events
destined for the module will be saved for manual diagnosis.
IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events
associated with this module will not occur.
REC-ACTION: Use fmdump -v -u <EVENT-ID> to locate the module. Use
fmadm reset <module> to reset the module.
```

回避方法: `fmd` サービスが停止した場合は、回復させるために、ドメイン上で次のコマンドを実行してください:

```
# svcadm clear fmd
```

その後、cpumem-diagnosis を再起動します:

```
# fmadm restart cpumem-diagnosis
```

### Oracle Solaris 10 8/11 で修正された問題

22 ページの表 3.3 に、Oracle Solaris 10 8/11 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらが発生する可能性があります。

表3.3 Oracle Solaris 10 8/11 で修正された問題

CR ID	M3000	M4000	M8000	説明	回避方法
				M5000 M9000	
6794630o	o	o		2T バイトよりも大きいドメインに GUI を使用して Oracle Solaris をインストールしようとする、失敗する場合があります。	コマンド行インタフェースを使用して Oracle Solaris OS をインストールしてください。

### Oracle Solaris 10 9/10 で修正された問題

22 ページの表 3.4 に、Oracle Solaris 10 9/10 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらが発生する可能性があります。

表3.4 Oracle Solaris 10 9/10 で修正された問題

CR ID	M3000	M4000	M8000	説明	回避方法
				M5000 M9000	
6888928o	o	o		プローブパケットが IPMP インタフェースを通じて送信されていないため、IPMP インタフェースが失敗します。問題が発生するのは、M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 です。Oracle Solaris 10 10/09 OS および IPMP を実行しているサーバー、またはパッチ 141444-09 がインストールされ、IPMP を実行している Oracle Solaris リリースで確認されています。	プローブベースの障害検出を無効にします。 <i>Solaris 10 オペレーティングシステム (OS) を使用した IPMP リンクベースのみの障害検出に関するドキュメント (Doc ID 1008064.1) を参照してください</i>
6668237o	o	o		DIMM を交換しても、該当する DIMM の故障がドメインから消去されません。	コマンド <b>fmadm repair fmri uuid</b> を使用して修復を記録します。次に、 <b>fmadm rotate</b> コマンドを使用して残りのイベントを消去します。
6872501o	o	o		XSCF によってリクエストされた場合、コアがオフラインになりません。この CR の対象となるのは、Oracle	サービスプロセッサ上で、v オプションを指定して <b>fmdump(1M)</b> を使用し、障害のあるコアを識別します。識別したあ

CR ID	M3000 M4000 M8000 M5000 M9000	説明	回避方法
		Solaris 10 5/09 リリースおよび Oracle Solaris 10 10/09 リリースのみです。	と、ドメインで <b>psradm(8)</b> を使用してコアをオフラインにします。

## Oracle Solaris 10 10/09 で修正された問題

23 ページの表 3.5 に、Oracle Solaris 10 10/09 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらが発生する可能性があります。

表3.5 Oracle Solaris 10 10/09 で修正された問題

CR ID	M3000 M4000 M8000 M5000 M9000	説明	回避方法	
65728270	o	o	<b>prtdiag -v</b> コマンドで PCI バスのタイプが間違っ報告されます。PCI-X リーフデバイスが「PCI」、レガシー PCI デバイスが「UNKN」と報告されます。	回避方法はありません。
6724307		o	スケジューラの決定が不均衡になる場合があります。  あるコア上に 2 つのスレッド (両方ともほぼ半分の速度で動作します) が存在し、同時に別のコアがアイドルになっていることがあります。多くの OpenMP および類似の平行アプリケーションでは、アプリケーションのパフォーマンスが、もっとも遅いスレッドの速度に制限されます。  不均衡なスケジューリングは一般的ではありません (50 の決定に 1 つまたは 100 の決定に 1 つ程度になると考えられます)。ただし、128 のスレッドが動作している場合、アプリケーションには不均衡なスケジューリングイベントが 1 つ以上存在する可能性があります。	プロセッサセットを使用して、コア割り当てに対する不均衡なスレッドを防止してください。
6800734	o	o	ドメインで <b>deleteboard</b> がハングアップします	回避方法はありません。
6816913	o	o	XSCF の <b>showdevices(8)</b> コマンドで、端数のプロセッサキャッシュサイズに対して間違っプロセッサキャッシュサイズが表示されます (たとえば、正しい表示が「5.5MB」である場合に、「5MB」と表示されます)。	ドメインで Oracle Solaris コマンドの <b>prtdiag(1M)</b> を使用して、プロセッサ情報を報告させてください。

CR ID	M3000 M5000	M4000 M9000	M8000 説明	回避方法
6821108	○	○	DR および <b>showdevices(8)</b> が、XSCF のリブート後に動作しません。	XSCF サービスプロセッサを 2 回リブートします。最初に SA (セキュリティアソシエーション) の半数、2 回目で残りの半数が削除され、2 回目の追加が成功して、IPSec 通信が再確立されます。
6827340	○	○	SCF コマンドのエラーによって、DR およびメモリー巡回に失敗することがあります。	回避方法はありません。

## Oracle Solaris 10 5/09 で修正された問題

24 ページの表 3.6 に、Oracle Solaris 10 5/09 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらが発生する可能性があります。

表3.6 Oracle Solaris 10 5/09 で修正された問題

CR ID	M3000 M5000	M4000 M9000	M8000 説明	回避方法
6588555	○	○	永続メモリーで DR 操作中に XSCF をリセットすると、ドメインがパニックすることがあります。	DR 操作の進行中は、XSCF リセットを起動しないでください。DR 操作が完了するのを待ってから、リセットを開始します。
6623226	○	○	Oracle Solaris コマンドの <b>lockstat(1M)</b> や <code>dtrace lockstat</code> プロバイダで、システムパニックが発生することがあります。	Oracle Solaris <b>lockstat(1M)</b> コマンドまたは <code>dtrace lockstat</code> プロバイダを使用しないでください。
6680733	○	○	負荷が高い状況で、Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC) および Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) NIC がパニックすることがあります。	可能な場合は、カードを x8 スロットで使用します。それ以外は、回避方法はありません。
6689757	○	○	単一の XFP 光トランシーバまたは正しく取り付けられていない XFP 光トランシーバで Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile アダプタ (XGF) を使用すると、次のエラーがコンソールに表示されることがあります:  The XFP optical transceiver is broken or missing.	両方の XFP 光トランシーバがハウジングにしっかりと装着されていることを確認してください。  INTEL と Sun の XFP 光トランシーバを同じアダプタに混在させないでください。  ポートに XFP 光トランシーバが含まれていない場合、またはポートに XFP 光トランシーバが含まれていても未使用の場合は、Oracle Solaris コマンド

CR ID	M3000 M4000 M8000 M5000 M9000	説明	回避方法
6725885	o	XCP コマンド <b>cfgadm</b> (8) で、存在しない M3000 システムボードが表示されます (SB1 - SB15)。	<b>ifconfig</b> (1M) でポートを plumb しないでください。 <b>cfgadm</b> 出力の SB1 - SB15 は無視できます。

## Oracle Solaris 10 10/08 で修正された問題

25 ページの表 3.7 に、Oracle Solaris 10 10/08 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらが発生する可能性があります。

表3.7 Oracle Solaris 10 10/08 で修正された問題 (シート 1/4)

CR ID	M3000 M4000 M8000 M5000 M9000	説明	回避方法
6511374	o o	エラーが多すぎてメモリーバンクが無効になった場合は、ブート中にメモリー交換の警告メッセージが表示されることがあります。	システムのリブート後に、 <b>fmadm repair</b> コマンドを使用して、次回ブート時に問題が再現しないようにできます。
6533686	o o	XSCF でシステムリソースが不足している場合、永続メモリーを再配置する DR deleteboard または moveboard 操作が、次に示す 1 つ以上のエラーで失敗することがあります:  SCF busy  DR parallel copy timeout  これが適用されるのは、マルチドメインをホストしている Quad-XSB 構成のシステムボードだけです。	あとで、DR 操作を再実行してください。
6535018	o	SPARC64 VII プロセッサを搭載した Oracle Solaris ドメインでは、スレッド数を 256 超の値に増やしても、Oracle Solaris カーネルを大量に使用するワークロードが期待どおりにスケールしないことがあります。	SPARC64 VII プロセッサを搭載した Oracle Solaris ドメインでは、ドメインを最大 256 スレッドに制限してください。
6556742	o o	DR 時に DiskSuite が metadb を読めない場合、システムがパニックします。このバグの影響を受けるカードは次のとおりです:  • SG-XPCIE2FC-QF4 (4-Gigabit PCI-e Dual-Port Fiber Channel HBA)	metadb の複製コピーに別のホストバスアダプタを介してアクセス可能であれば、パニックは回避できます。

CR ID	M3000 M4000 M8000 M5000 M9000	説明	回避方法
		<ul style="list-style-type: none"> <li>SG-XPCIE1FC-QF4 (4-Gigabit PCI-e Single-Port Fiber Channel HBA)</li> <li>SG-XPCI2FC-QF4 (4-Gigabit PCI-X Dual-Port Fiber Channel HBA)</li> <li>SG-XPCI1FC-QF4 (4-Gigabit PCI-X Single-Port Fiber Channel HBA)</li> </ul>	
6589833	o o	<p>Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA カード (SG-XPCIE2FC-QF4) に接続されたストレージデバイスに SAP プロセスがアクセスしようとしているときに、このカードを追加しようとすると、DR addboard コマンドによりシステムがハングアップする場合があります。ネットワークトラフィックが多い状況で次のカードを使用していると、システムがハングアップする危険が大きくなります:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>X4447A-Z (PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP)</li> <li>X1027A-Z1 (PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter)</li> </ul>	回避方法はありません。
6608404	o o	<p>X4447A-Z (PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP) カードをホットプラグ操作でスロット 1 に取り付けると、ほかのネットワークデバイスに障害が発生する場合があります。</p>	この障害を回避するには、このカードをスロット 1 に取り付けないでください。
6614737	o o	<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR <b>deleteboard</b>(8) および <b>moveboard</b>(8) 操作がハングアップすることがあります:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>DIMM が縮退している。</li> <li>ドメインに含まれる各システムボードのメモリーサイズがそれぞれ異なっている。</li> </ul>	<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR 操作を実行しないでください:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縮退メモリー – システムに縮退メモリーが含まれているかどうかを確認するには、XSCF コマンド <b>showstatus</b>(8) を使用します。</li> <li>異なるメモリーサイズ – ドメインに含まれる各システムボードのメモリーサイズがそれぞれ異なっているか</li> </ul>

CR ID	M3000 M4000 M8000 M5000 M9000	説明	回避方法
			<p>どうかを確認するには、XSCF コマンド <b>showdevices(8)</b> またはドメインで Oracle Solaris コマンド <b>prtdiag(1M)</b> を使用してメモリーサイズのリストを表示します。</p> <p>DR コマンドがハングアップした場合は、回復させるためにドメインをリブートしてください。</p>
6619224	o	SPARC64 VII プロセッサを搭載した Oracle Solaris ドメインでは、256 スレッド以上のシングルドメインが、一定の異常状態で長期間にわたってハングアップすることがあります。回復時に、uptime コマンドは極端に高い負荷平均を示します。	SPARC64 VII プロセッサを搭載した Oracle Solaris ドメインでは、シングル Oracle Solaris ドメインで 256 の仮想プロセッサのドメインサイズを超過しないでください。つまり、シングルドメイン構成で最大 32 CPU になります (M8000 サーバーの最大構成)。
6632549	o	o	ドメインでの <b>fmd service</b> が、DR 操作後に保守モードの開始に失敗することがあります。
6660197	o	o	<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR によってドメインがハングアップすることがあります:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドメインに 256 以上の CPU が含まれている。</li> <li>メモリーエラーが発生し、DIMM が縮退している。</li> </ul>
6679370	o	o	<p>システムのブート中、ホットプラグを使用した PCI ボックスの追加中、または DR による FMEMA の操作中に、次のメッセージがコンソールに出力されることがあります:</p> <p>SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE:</p> <p>Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical ... DESC:</p> <p>A problem was detected in the PCIExpress subsystem.</p>
6720261	o	o	<p>ドメインで Oracle Solaris 10 5/08 OS を実行している場合、通常の操作</p>
			<p>ドメインで次のコマンドを実行します:</p> <p><b># svcadm clear fmd</b></p> <p>1. 次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定します: <b>set drmach:drmach_disable _mcopy=1</b></p> <p>2. ドメインをリブートします。</p> <p>/etc/system ファイルに次を追加し、ドメインをリブートしてください。</p> <p><b>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</b></p> <p>次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定します:</p> <p><b>set heaplp_use_stlib=0</b></p>

CR ID	M3000 M4000 M8000 M5000 M9000	説明	回避方法
6737039	o	中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。  M3000 サーバーの WAN ブートが、ブートプロセスの初期段階でのパニックにより断続的に失敗します。出力例:  ERROR: Last Trap: Fast Data Access MMU Miss %TL:1 %TT:68 %TPC:13aacc %TnPC:13aad0 %TSTATE:1605 %PSTATE:16 (IE:1 PRIV:1 PEF:1) DSFSR:4280804b ( FV:1 OW:1 PR:1 E:1 TM:1 ASI:80 NC:1 BERR:1 ) DSFAR:fda6f000 DSFPAR:401020827000 D- TAG:6365206f66206000	その後、ドメインをリブートしてください。  シャーシの電源を切断して投入し、操作を再実行してください。

## Oracle Solaris 10 5/08 で修正された問題

28 ページの表 3.8 に、Oracle Solaris 10 5/08 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらが発生する可能性があります。

表3.8 Oracle Solaris 10 5/08 で修正された問題 (シート 1/5)

CR ID	M3000 M4000 M8000 M5000 M9000	説明	回避方法
5076574	o	大規模な M8000/M9000 ドメインでは、PCIe エラーが発生すると障害診断が無効になるおそれがあります。	次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.conf を作成してください:  <b>setprop client.buflim 40msetprop client.memlim 40m</b>
6348554	o o	次のカードで <b>cfgadm -c disconnect</b> コマンドを使用すると、コマンドがハングアップする場合があります:  <ul style="list-style-type: none"> <li>SG-XPCIE2FC-QF – Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA</li> <li>SG-XPCIE1FC-QF4 – Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA</li> <li>SG-XPCI2FC-QF4 – Sun StorageTek Enterprise Class</li> </ul>	影響のあるカードでは、 <b>cfgadm -c disconnect</b> 操作を実行しないでください。

CR ID	M3000 M4000 M8000 M5000 M9000	説明	回避方法
		4-Gigabit Dual-Port Fiber Channel PCI-X HBA • SG-XPCI1FC-QF4 – Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Single-Port Fiber Channel PCI-X HBA	
6402328	o	1 つのドメイン内で 6 つを超える IOUA カード (基本 I/O カード) を使用すると、I/O 負荷が高いときにパニックが発生することがあります。	1 つのドメイン内の IOUA の数は、最大で 6 つまでに制限してください。
6472153	o	o	M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー以外の sun4u サーバー上に Oracle Solaris フラッシュアーカイブを作成し、これらのサーバーのいずれかにインストールすると、コンソールの TTY フラグが正しく設定されません。このため、負荷がかかっているときにコンソールに文字が表示されなくなる場合があります。
			Oracle Solaris フラッシュアーカイブから Oracle Solaris OS をインストールした直後に、M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーに telnet で入り、コンソールの TTY フラグを次のようにリセットします。 <pre># sttydefs -r console</pre> <pre># sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre> この作業は 1 回のみ必要です。
6505921	o	システム PCIe バスコントローラの修正可能なエラーによって、無効な障害が発生します。	次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.conf を作成してください: <pre>setprop client.buflim 40m</pre> <pre>setprop client.memlim 40m</pre>
6522433	o	o	リポート後の CPU 障害によって、fmdump が正しいマザーボードを識別できないことがあります。
6527811	o	o	XSCF 上で <b>showhardconf(8)</b> コマンドを使用すると、PCI ホットプラグを使用して PCI ボックスが構成されていても、PCI ボックスにインストールされている PCI カード情報を表示することができません。
6536564	o	o	<b>showlogs(8)</b> および <b>showstatus(8)</b> コマンドが、別の I/O コンポーネントを報告することがあります。
			この問題を回避するには、ドメインで次のコマンドを実行してください。

CR ID	M3000 M4000 M8000 M5000 M9000	説明	回避方法
			<pre># cd /usr/platform/ SUNW,SPARCEnterprise/lib/fm/ topo/plugins  # mv ioboard.so ioboard .so.orig  # svcadm restart fmd</pre> <p>次のメッセージが表示された場合は、当社技術員までご連絡ください:</p> <p>SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor, EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc</p>
6545143	o o	<p>ユーザースタックアドレスの TLB ミスのトラップ処理中にシステムパニックがまれに発生することがあります。この問題は、フラッシュウインドウトラップ (ta 3) を実行するユーザープロセスと同時に、ユーザースタックの対応付けが解除される場合に発生する可能性があります。パニックメッセージには、次の文字列が含まれています:</p> <p>bad kernel MMU trap at TL 2</p>	回避方法はありません。
6545685	o o	<p>電源投入時自己診断 (POST) で修正可能なメモリーエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って 4 つまたは 8 つの DIMM に縮退することがあります。</p>	<p>/etc/system で次のように設定し、使用されるメモリー巡回タイムアウト値を増やしてから、システムをリブートします:</p> <pre>set mc-opl:mc_max_rewrite_loop =20000</pre>
6546188	o o	<p>次のカード上でホットプラグ (<b>cfgadm</b>) および DR 操作 (<b>addboard</b> および <b>deleteboard</b>) を実行すると、システムがパニックします:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z (PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP)</li> <li>• X1027A-Z1 (PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter)</li> </ul>	回避方法はありません。

CR ID	M3000 M5000	M4000 M9000	M8000 説明	回避方法
6551356	o	o	<p>以前に未構成だったカードを構成するためにホットプラグ (<b>cfgadm</b>) を実行すると、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、「警告: PCI 拡張 ROM にアクセスできません」というメッセージがコンソール上に表示されます。次のカードがこのバグの影響を受けます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z (PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP)</li> <li>• X1027A-Z1 (PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter)</li> </ul>	<p>カードを完全に取り外すには、<b>cfgadm -c</b> を使用します。10 秒以上待ってから、<b>cfgadm -c configure</b> コマンドを使用してカードの構成をドメインに戻すことができます。</p>
6559504	o	o	<p>次のカードを使用すると、nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn という形式のメッセージがコンソールに表示されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z (PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP)</li> <li>• X1027A-Z1 (PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter)</li> </ul>	<p>これらのメッセージは無視して差し支えありません。</p>
6563785	o	o	<p>次のカードでホットプラグ操作を行なった場合、カードを切断してその直後に再接続すると、ホットプラグ操作が失敗することがあります:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SX-PCIE2SCSIU320Z – Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA</li> <li>• SGXPCI2SCSILM320-Z – Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra 320 SCSI HBA</li> </ul>	<p>カードを切断したあと、数秒待ってから再接続してください。</p>
6564934	o	o	<p>次のネットワークカードを使用しているときに永続メモリーを搭載したボードに対して DR <b>deleteboard</b> 操作を実行すると、接続が切れます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z (PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP)</li> </ul>	<p>DR 操作が完了してから、影響を受けたネットワークインタフェースを再構成してください。基本的なネットワーク構成手順の詳細は、<b>ifconfig</b> のマニュアルページを参照してください。</p>

CR ID	M3000 M5000	M4000 M9000	M8000 説明	回避方法
6568417	o	o	<ul style="list-style-type: none"> <li>X1027A-Z1 (PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter)</li> </ul> <p>CPU DR <b>deleteboard</b> 操作が正常に終了したあと、次のネットワークインタフェースが使用されていると、システムがパニックします:</p>	<p>/etc/system に次の行を追加し、システムをリブートしてください:</p> <pre>set ip:ip_soft_rings_cnt=0</pre>
6571370	o	o	<ul style="list-style-type: none"> <li>X4447A-Z (PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP)</li> <li>X1027A-Z1 (PCI-e Dual 10-Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter)</li> </ul> <p>実験室条件で負荷テストを実行した結果、次のカードでデータ破壊が発生しました:</p>	<p>/etc/system に次の行を追加し、システムをリブートしてください:</p> <pre>set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</pre>
6584984		o	<p>w オプションを指定して <b>busstat</b>(1M) コマンドを実行すると、M8000/M9000 サーバードメインがリブートされることがあります。</p>	<p>回避方法はありません。<b>busstat -w</b> コマンドを <b>pcmu_p</b> で実行しないでください。</p>
6589546	o	o	<p><b>prtdiag</b> は、必ずしも次のカードのすべての I/O デバイスを表示しません:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SG-XPCIE2FC-EM4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA)</li> <li>SG-XPCIE1FC-EM4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA)</li> </ul>	<p>出力を完全にするには <b>prtdiag -v</b> を使用してください。</p>
6663570	o	o	<p>最小番号の CPU に関連する DR 操作によって、ドメインでパニックが発生することがあります。</p>	<p>最小の CPU ID を持つ CPU をホストするシステムボードを、DR を使用して取り外さないでください。最小の CPU ID を持つ CPU を識別するには、Oracle Solaris の <b>prtdiag</b> コマンドを使用します。</p>

## Oracle Solaris 10 8/07 で修正された問題

33 ページの表 3.9 に、Oracle Solaris 10 8/07 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらが発生する可能性があります。

表3.9 Oracle Solaris 10 8/07 で修正された問題 (シート 1/3)

CR ID	M4000 M8000 M5000 M9000	説明	回避方法
6303418	o	シングルドメインで 11 以上の全割り当てされたシステムボードを備える M9000 サーバーは、負荷が高い状況でハングアップすることがあります。	CPU スレッドの数が 170 を超えないようにしてください。  Oracle Solaris <b>psradm</b> コマンドを使用して過剰な CPU スレッドを無効にして、CPU スレッドの数を CPU コアあたり 1 つに制限してください。たとえば、奇数の CPU スレッドをすべて無効にします。
6416224o	o	単一の NIC カードの接続数が 5,000 を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。	複数の NIC カードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。
6441349o	o	I/O エラーでシステムがハングアップすることがあります。	回避方法はありません。
6485555o	o	競合状態により、オンボードのギガビット Ethernet NVRAM に障害が発生する場合があります。この競合状態が発生する可能性は、非常に低いものです。	回避方法はありません。
6496337o	o	修正不能なエラー (UE) パニックの発生後、「cpumem-diagnosis」モジュールのロードが失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、このモジュールを使用する FMA によって通常は自動診断されるイベントが手動診断を要求します。  例:  SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor  EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007,  HOSTNAME: col2-ffem7-d0	問題がすでに発生している場合:  1. cpumemdiagnosis ファイルを削除します。  # rm /var/fm/fmd/ckpt\ / # cpumemdiagnosis/\ cpumem-diagnosis  2. fmd service を再起動します:  # svcadm restart fmd  この問題をあらかじめ回避するには、ファイル /lib/svc/method/svc-dumpadm に次の行を追加します:  # savedev=none  rm -f  /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis /cpumem-diagnosis

CR ID	M4000 M8000 説明 M5000 M9000	回避方法
		#
6495303	o PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG-(X)PCIE2SCSIU320Z) を SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーの IOU スロット 1 で使用すると、システムパニックが発生することがあります。	このカードを IOU スロット 1 で使用しないでください。
6498283	o ドメインで <b>psradm</b> 操作の実行中に、DR <b>deleteboard</b> コマンドを使用すると、システムパニックが発生することがあります。	回避方法はありません。
6499304	o 予期しないメッセージがコンソールに表示され、修正可能なエラー (CE) が多数発生しても CPU はオフラインになりません。  例:  SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007, PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0	XSCF の CPU ステータスを確認してください。
6502204	o CPU UE パニックの発生後のブート時に、予期しないエラーメッセージがコンソールに表示されることがあります。  例:  SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1- 16-d0	予期しないメッセージが表示された場合は、 <b>showdomainstatus(8)</b> コマンドを使用して、XSCF のシステムステータスを確認してください。
650275	o 挿入または取り外されたホットプラグの PCI カードが通知メッセージを出力しないことがあります。	回避方法はありません。
6508432	o PCIe の偽の修正可能なエラーが FMA エラーログに多数記録されることがあります。	これらのエラーをマスクするには、次のエントリを <code>/etc/system</code> に追加し、システムをリブートしてください:  <b>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</b>
6508434	o PCI ホットプラグを使用して、追加の PCI-X カードを取り付けまたは交換すると、ドメインがパニックすることがあります。	PCI ホットプラグを使用して、異なるタイプの PCI-X カードを同じ PCI スロットに挿入しないでください。

CR ID	M4000 M8000 M5000 M9000	説明	回避方法
6510861o	o	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG-(X)PCIE2SCSIU320Z) を使用しているとき、PCIe の修正可能なエラーによって Oracle Solaris のパニックが発生します。	この問題を回避するには、次のエントリを /etc/system に追加してください:  set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1
6520990o	o	ドメインがリブートしたとき、SCF が同じ物理ボードを共有しているほかのドメインにサービスを提供できないことがあります。DR 操作がデフォルトのタイムアウト時間を超え、パニックが発生する可能性があります。	次の文を /etc/system に設定して DR タイムアウト時間を大きくし、システムをリブートします:  set drmach:fmem_timeout = 30
6527781	o	2 つのドメイン間で DVD/DAT ドライブを移動中に、 <b>cfgadm</b> コマンドが失敗します。	回避方法はありません。DVD/テープドライブを再構成するには、問題が発生しているドメインから <b>reboot -r</b> を実行してください。
6530178o	o	DR <b>addboard</b> コマンドがハングアップすることがあります。問題が検出されると、それ以上の DR 操作はブロックされます。回復にはドメインのリポートが必要です。	回避方法はありません。
6530288o	o	<b>cfgadm(1M)</b> コマンドが Ap_Id 形式を正しく表示しないことがあります。	回避方法はありません。
6534471o	o	通常の操作中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。	パッチが入手可能でない場合は、カーネルの大きなページの sTLB プログラミングを無効にしてください。/etc/system ファイルで、 <b>heaplp_use_stlb</b> 変数を 0 に変更してください:  set heaplp_use_stlb=0
6535564o	o	DR によって追加された XSB で、PCI スロット #0、#1、または PCI ボックスに対する PCI ホットプラグが失敗することがあります。	XSB の PCI カードを追加または取り外す必要がある場合は、PCI ホットプラグの代わりに DR を使用してください。
6539084o	o	ドメインに Sun Quad GbE UTP x8 PCIe (X4447A-Z) カードが存在する場合、リポート中にドメインのパニックがまれに発生することがあります。	回避方法はありません。
6539909o	o	boot net install コマンドを使用して Oracle Solaris OS をインストールしているとき、ネットワークアクセスに次の I/O カードを使用しないでください:  • X4447A-Z/X4447A-Z (PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP)	代替タイプのネットワークカードまたはオンボードのネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由で Oracle Solaris OS をインストールしてください。

CR ID	M4000 M8000 説明 M5000 M9000	回避方法
65426320	o	<ul style="list-style-type: none"> <li>• X1027A-Z/X1027A-Z (PCIe Dual 10-Gigabit Ethernet Fiber XFP)</li> </ul> ドライバ接続に失敗すると、PCIe モジュールにメモリーリークが発生します。回避方法はあります。

## ソフトウェアドキュメントの更新

このセクションでは、ドキュメントの出版後に判明した最新情報、またはごく最近に追加された最新情報について説明します。

### マニュアルページの更新



#### 注記

一般的に、オンラインのマニュアルページは『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』よりも頻繁に更新されます。不一致がある場合は、マニュアルページの下部の最終更新日付を確認してください。

表3.10 マニュアルページの変更

マニュアルページ	変更
addcodactivation(8)、 setcod(8)、showcod(8)、 showcodusage(8)	これらのマニュアルページでは、COD ヘッドルーム機能について引き続き説明していますが、この機能はサポートされなくなりました。 <a href="#">15 ページの「Capacity on Demand (COD)」</a> を参照してください。
setupfru(8)	マニュアルページの次の説明が M4000/M5000 サーバにも適用されます: M8000/M9000 サーバでは 2 つの CPU を搭載している CMU を Quad-XSB モードに構成できますが、CPU およびメモリーが搭載されていない XSB については、サーバで「configuration error」メッセージが生成されます。
clearfault(8)	マニュアルページで clearfault コマンドの説明が更新され、「このコマンドを実行するには、platadm 特権または fieldeng 特権が必要です。詳細は、setprivileges(8) を参照してください」となります。

### ソフトウェアマニュアルの更新

表3.11 ソフトウェアマニュアルの変更

ドキュメントのタイトル	変更
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバキャパシティオンデマンド (COD) ユーザーズガイド』	このドキュメントには、XCP 1101 ファームウェアにアップグレードする前にヘッドルームを 0 に設定する手順がまだ記載されていません。 <a href="#">15 ページの「Capacity on Demand (COD)」</a> を参照してください。

---

ドキュメントのタイトル	変更
<i>SPARC Enterprise Mx000 サーバーの管理ガイド</i>	<i>SPARC Enterprise Mx000 サーバーの管理ガイド</i> は 2012 年 6 月に更新されました。

---

---

# 4

## ハードウェアに関する情報

---

この章では、この XCP リリースに関連する M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーハードウェアに関する問題について説明します。

### 重要な注意点、問題、および回避方法 - すべての M シリーズサーバー

#### ハードウェアの互換性

最新のハードウェアの互換性の情報については、9 ページの「ハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアの互換性」を参照してください。

#### WAN ブートサーバーからのブート

WAN ブートインストール方法を使用すると、HTTP を使用してワイドエリアネットワーク (WAN) 経由でソフトウェアのブートとインストールを行うことができます。WAN ブートサーバーから M4000/M5000 サーバーをブートできるようにするには、適切な実行可能ファイル wanboot をインストールし、OpenBoot Version 4.24.10 以降を使用して、必要なハードウェアがサポートされるようにする必要があります。

WAN ブートサーバーについては、使用している Oracle Solaris 10 OS のバージョンに対応する『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。Oracle Solaris 10 OS のドキュメントはここにあります。

<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/index.html>

実行可能ファイル wanboot をアップグレードしないと、サーバーでパニックが発生し、次のようなメッセージが表示されます:

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

#### 単一の J4200 JBOD ストレージレイからの複数のシステムのブート

Sun Storage J4200 SAS JBOD アレイは、6 つの汎用 SAS コネクタを備えています。FW バージョン 3A32 以降では、各コネクタを別々の SAS イニシエータに接続できるため、最大 6 台のシステムをアレイに接続できます。各システムは、アレイ上のそれぞれ異なるディスクをブートデバイスとして使用できます。J4200 のアレイは 12 台のディスクを搭載しているため、各ブートデバイス

をミラー化することで信頼性を向上できます。J4200 アレイを複数のゾーンに構成し、よりセキュアな環境を構築できます。

詳細については、次の Sun StorageTek Common Array Manager のソフトウェアドキュメントを参照してください:

<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/disk-device-194280.html#hic>

特に、次を参照してください:

- 『Sun StorageTek Common Array Manager ソフトウェアリリースノート 6.4.1』
- 『Sun StorageTek Common Array Manager ユーザーズガイドオープンシステム用』

## USB メモリーを使用する場合の注意事項

**dumpconfig(8)**、**restoreconfig(8)**、または **snapshot(8)** コマンドの実行時にデータの格納先として USB メモリーを指定する場合は、あらかじめ媒体として USB メモリーを用意してください。

格納されたデータにはシステムに関する情報が含まれています。USB メモリーを使用する場合は、データセキュリティの観点から、データが格納された USB メモリーの管理に注意を払う必要があります。

現在販売されているすべての USB メモリーについて、XSCF との正常な動作および接続性を保証しているわけではありません。使用している USB メモリーによっては、XSCF ファームウェアエラーやリセットなどの問題が発生する場合があります。そのような場合は、ただちに USB メモリーの使用を中止してください。

USB メモリーを XSCF の USB ポートに接続する場合は、USB ポートに直接 USB メモリーを接続してください。USB ハブや USB 拡張を通じて接続すると、エラーが発生することがあります。

## ハードウェアの機能の問題と制限事項

外部電源制御装置の外部電源制御インタフェースを使用するとき、次の通知信号はサポートされていません:

- OS パニックまたはサーバーハードウェア異常信号 (\*CPUN/RTNU)
- サーバーハードウェア異常信号 (電源異常、温度異常、ファン異常) (\*ALARM)

ドメインでサポートされるカードの数など、I/O オプションおよびストレージについては、次の Oracle Cross Platform IO Support ページを参照してください:

<https://wikis.oracle.com/display/SystemsComm/Cross+Platform+IO+Support>

## 重要な注意点、問題、および回避方法 - M3000 サーバーのみ

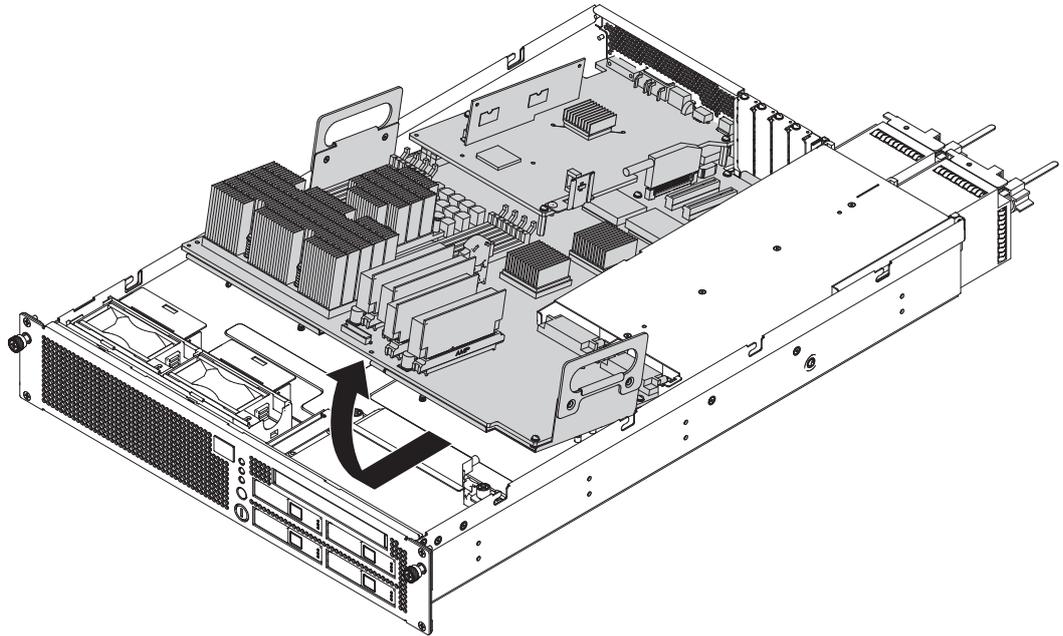
### Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ

次の Emulex カードは、パッチ 120222-27 で提供されるドライバが必要です:

- XSEFC402AF (Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA)
- XSEFC401AF (Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Single-Port Fiber Channel PCIe HBA)

## MBU\_A 上に取り付けられたドーターカード

『SPARC Enterprise M3000 サーバースerviceマニュアル』の図 6-5 は、次の図に差し替えられます。この修正済みの図には、MBU\_A 上に取り付けられたドーターカードが示されています。



## ハードウェアの機能の問題と制限事項

このセクションでは、このリリースの既知の問題について説明します。

- 分電盤のメインラインスイッチまたは回路遮断器によってシステムの電源を再投入する場合、電源を切断したあとに少なくとも 30 秒待ってから、電源を投入してください。
- B 型プラグを持つサーバーでは、サーバー外に 15A の過電流保護装置があることを確認してください。これがない場合は、ノーヒューズブレーカ (NFB) やヒューズなどを使用して、外部の 15A の過電流保護を用意してください。B 型プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15 などを指します。
- 複数の SAS ターゲットを含む SAS デバイスのオンボードの外部 SAS インタフェースへの接続はサポートされていません。代わりに、Sun StorageTek Host Bus Adaptor (SG-XPCIE8SAS-E-Z) を使用してください。

## 重要な注意点、問題、および回避方法 - M4000/M5000 および M8000/M9000 サーバーのみ

### ▼ M4000/M5000 サーバーの場合、CPUM に Capacity On Demand (COD) のライセンスが与えられているかどうかを判断する

M4000/M5000 サーバーのマザーボードを交換する前に、COD のライセンスが与えられている CPUM を確認します。

1. 次のコマンドを入力します:

```
XSCF> showboards -va
```

2. COD CPUM が見つかった場合は、出力を記録します。

3. マザーボードを交換したら、COD CPUM が含まれていた XSB ごとに、次のコマンドを実行します。

```
XSCF> enablecodboard
```

## ▼ M8000/M9000 サーバーの場合、CPU に COD のライセンスが与えられているかどうかを判断する

M8000/M9000 サーバーの CMU を交換する前に、COD のライセンスを与えられている CPU を確認します。

1. 次のコマンドを入力します:

```
XSCF> showboards -va
```

2. COD CPU が見つかった場合は、出力を記録します。
3. CMU を交換したら、COD CPUM が含まれていた XSB ごとに、次のコマンドを実行します。

```
XSCF> enablecodboard
```

## M9000 サーバーの設置エリア

『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の図 1-13 - 1-16 では、メトリック変換 3060 mm (120.5 インチ) への修正が必要でした。次の図は修正されたメトリック変換を示しています。

図 1-13 は、M9000 サーバー (基本筐体) の設置エリアを示しています。

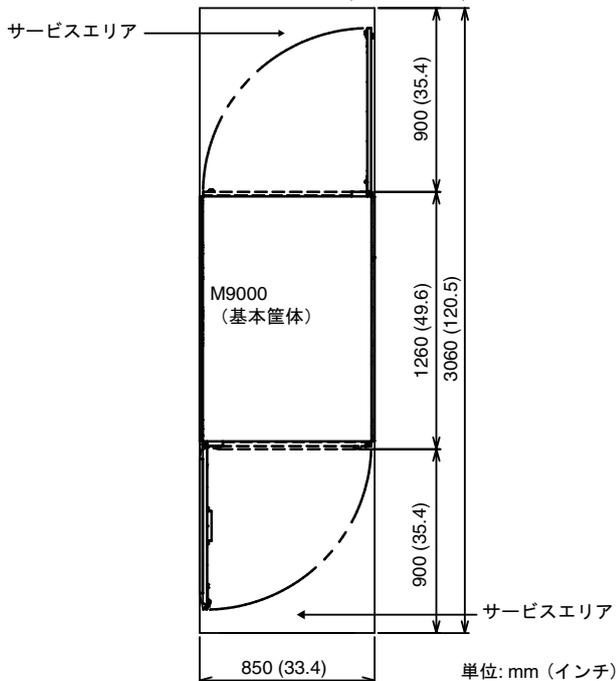


図 1-14 は、M9000 サーバー (基本筐体) + 電源筐体の設置エリアを示しています。

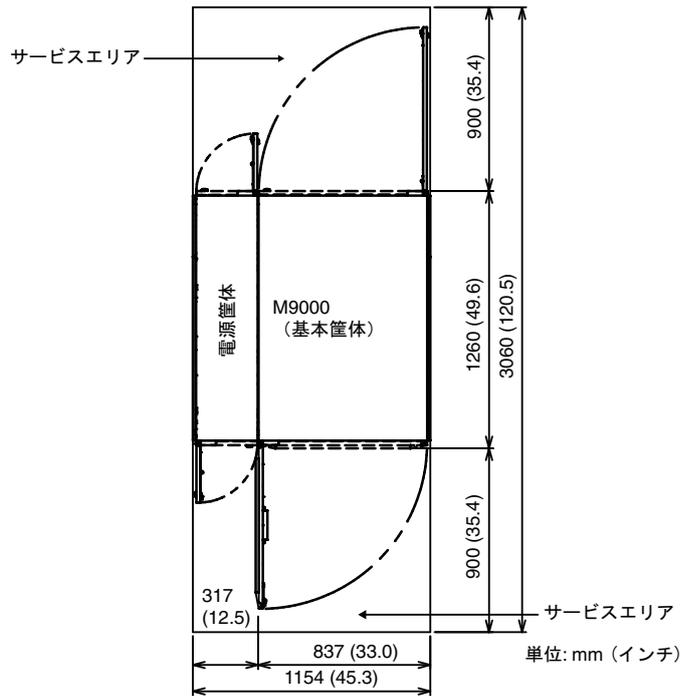


図 1-15 は、M9000 サーバー (基本筐体 + 拡張筐体) の設置エリアを示しています。

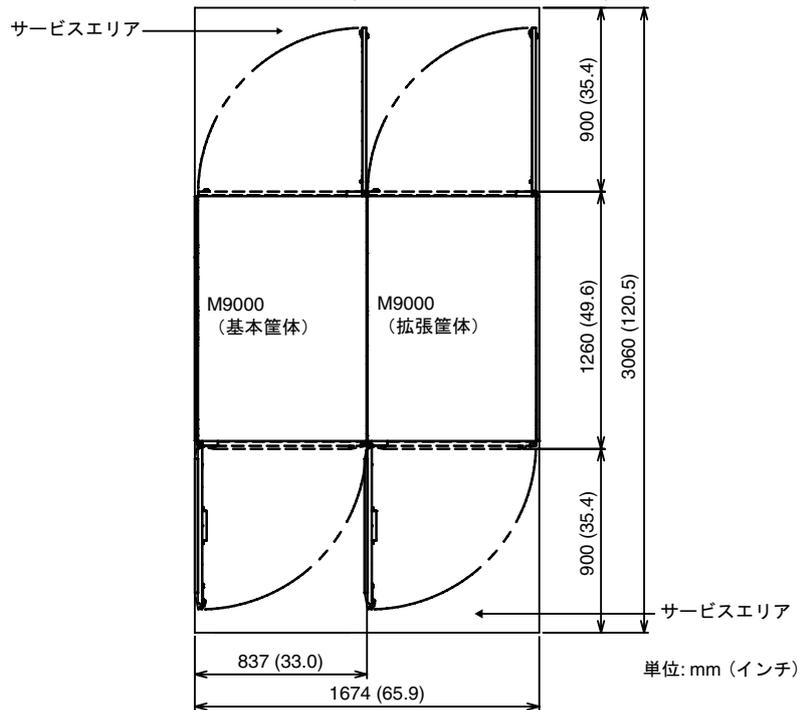
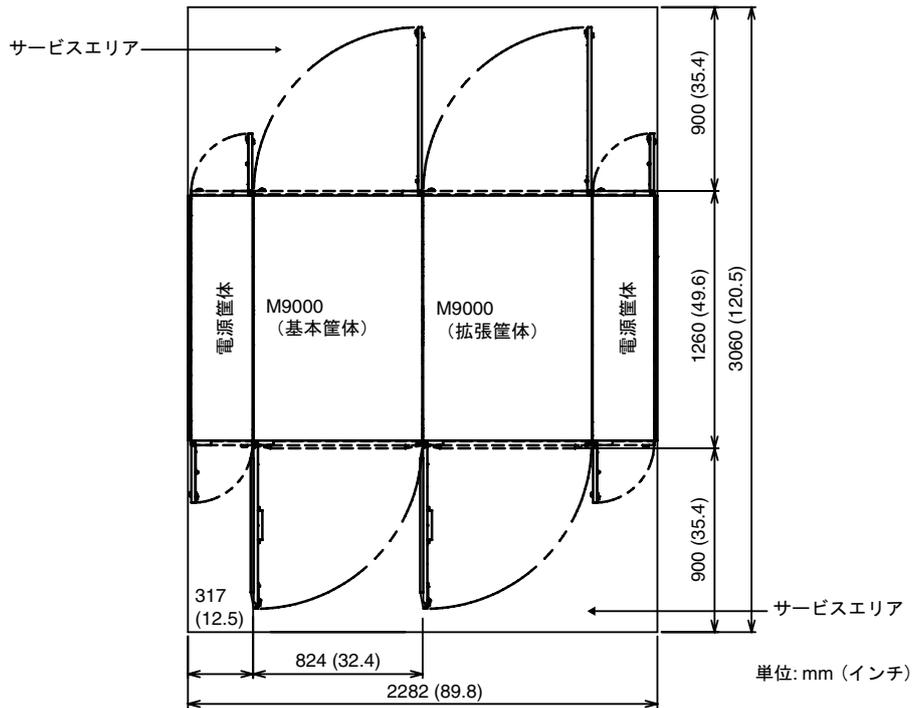
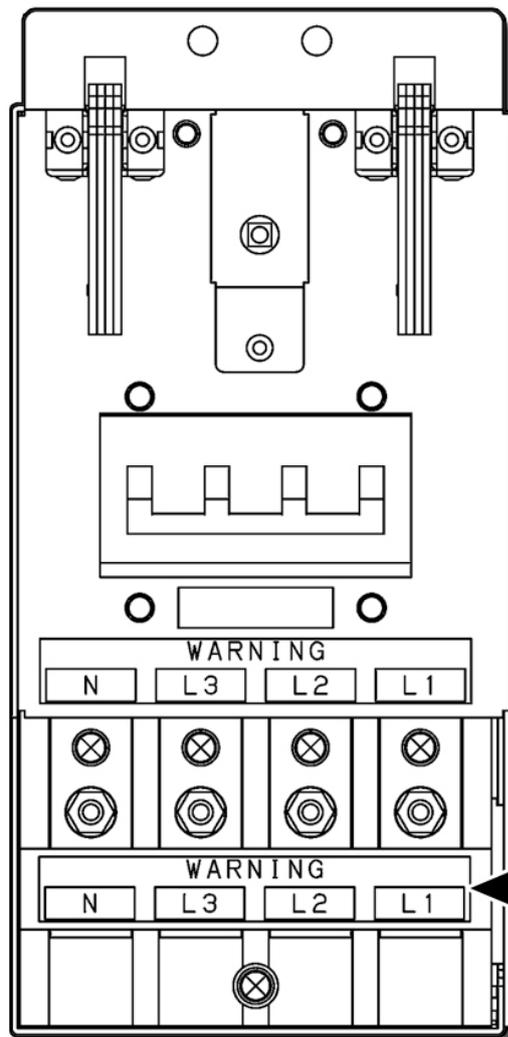


図 1-16 は、M9000 サーバー (基本筐体 + 拡張筐体) + 電源筐体の設置エリアを示しています。



### M9000 サーバー AC セクションの警告ラベル

AC セクションの警告ラベルに、端末接続シーケンスが変更されたことが示されています。警告ラベルに記載された端末シーケンスに従って接続してください。



電源ラインを接続するときは  
このラベルを剥がしてください。

## RAID 対応 IOUA

M8000/M9000 サーバーは、一定の条件下で RAID をサポートできるようになりました。詳細は、11 ページの「M8000/M9000 サーバーの RAID 対応 IOUA カードの XCP サポート」を参照してください。

M8000/M9000 サーバーの RAID 情報は、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル』および『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバアドミニストレーションガイド』の 2012 年 6 月版に追加されています。

## DVD ドライブと `cfgadm`

Oracle Solaris `cfgadm(1M)` コマンドでは、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバー上のドメインから DVD ドライブの構成を解除できない場合があります。`cfgadm(1M)` コマンドで DVD ドライブの構成を解除する前に、ボリューム管理デーモン (`vol`) を無効にします。`vol` を無効にするには、コマンド `/etc/init.d/volmgt stop` を実行してデーモンを停止します。デバイスの取り外しまたは挿入後に、コマンド `/etc/init.d/volmgt start` を実行してデーモンを再起動します。

---

## F20 PCIe カード

このリリースでは、M4000/M5000 および M8000/M9000 サーバーで Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードをサポートします。これらのカードは、M3000 サーバーではサポートされません。

M4000/M5000 サーバーでは、F20 カードをスロット 1 および 3 のみに構成します。この制限事項は、M8000/M9000 サーバーには適用されません。

詳細は、F20 のドキュメントを参照してください:

<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/index.html>



### 注記

PCI ボックスでは F20 カードをサポートしません。

---

## Sun Crypto Accelerator 6000 カード

Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードドライバの適切なバージョンを使用していない場合、SCA 6000 カードでホットプラグ操作を行うと、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーでパニックまたはハングアップが発生するおそれがあります。SCA6000 ドライバおよびファームウェアのバージョン 1.1 の場合、必要なブートストラップファームウェアのアップグレードを行うと、ホットプラグ操作が可能になります。SCA6000 ドライバのバージョン 1.0 は、ホットプラグをサポートしていないため、使用しないようにしてください。

## U320 PCIe SCSI カード

U320 PCIe SCSI カード (部品番号 375-3357-01/02) は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーの PCI カセットではサポートされていません。部品番号 375-3357-03 以降を使用する必要があります。

## QLogic PCIe カードのパッチ

次の QLogic カードは、パッチ 125166-10 で提供されるドライバが必要です:

- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE2FC-QF4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE1FC-QF4)

## Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ

次の Emulex カードは、パッチ 120222-27 で提供されるドライバが必要です:

- Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE2FC-EM4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Single-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE1FC-EM4)

## ハードウェアの機能の問題と制限事項

このセクションでは、このリリースの既知の問題について説明します。

- 外部 I/O 拡張ユニットを使用してホストサーバーを外部ブートディスクドライブに接続することは、サポートされていません
- CD-RW/DVD-RW ドライブユニットとテープドライブユニットは、同時に使用しないでください。
- 電源ケーブルは、M8000/M9000 一系統フィード単相サーバーでは、冗長化されていません。電源コードを冗長化するには、二系統電源フィードオプションが必要です。M8000/M9000 の一系統フィード単相電源ケーブルがすべて接続され、常に電源供給されている必要があります。
- 活性交換のために **addfru(8)** コマンドまたは **replacefru(8)** コマンドを使用すると、M8000/M9000 サーバー上で DR 操作が失敗する場合があります (DR で使用できないボードに関する誤ったメッセージが表示されます)。保守メニューで診断テストを実行せずに活性交換を行うと、この問題が発生します。この問題を回避するには、**addfru(8)** コマンドまたは **replacefru(8)** コマンドの保守メニューで診断を実行してください。回復には、**testsb(8)** コマンドを実行するか、**deletefru(8)** コマンドで CPU/メモリーボードユニットを削除してから **addfru(8)** コマンドを再実行してください。
- テープドライブユニットのオプションについては、ご購入先にお問い合わせください。
- M4000/M5000 サーバーは、停止交換で使用します。CPU モジュール (CPUM)、メモリーボード (MEMB)、I/O ユニット (IOU)、または XSCF ユニットのホットスワップはサポートされていません。

## M3000 サーバーのハードウェアドキュメントの更新

M3000 サーバーハードウェアのドキュメントは 2012 年 3 月に更新されました。

このセクションでは、ドキュメントセットの出版後に判明したハードウェアに関する最新情報について説明し、次の変更が M3000 サーバーハードウェアのドキュメントに加えられます。

表4.1 ハードウェアドキュメントの更新

タイトル	ページ番号	更新
『SPARC Enterprise M3000 サーバーサービスマニユアル』	B-1	表 B-1「FRU リスト」に、「修理センターで故障返品を診断して修理できなくなるため、MEMR や DDC などの FRU 以外のコンポーネントを取り外したり、取り替えたりしないでください」という脚注を追加するようにしてください。  図 6-5 は、MBU_A 上に取り付けられたドーターカードを示すように修正されます。

## M4000/M5000 サーバーのハードウェアドキュメントの更新

このセクションには、ドキュメントセットの出版後に M4000/M5000 サーバーハードウェアのドキュメントで判明した最新のハードウェア情報が含まれています。

表4.2 ハードウェアの更新

タイトル	ページ番号	更新
『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル』	13-1	マザーボードを交換する前に、CPUM に Capacity On Demand (COD) のライセンスが与えられているかどうかを判断します。 <a href="#">41 ページの「M4000/M5000 サーバーの場合、CPUM に Capacity On Demand (COD) のライセンスが与えられているかどうかを判断する」</a> を参照してください。
『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバインストレーションガイド』	2-8	「2.2.2 ケーブル接続」の注意事項の「B 型プラグ」を「ロック機能搭載プラグ」に置き換えるようにしてください。
『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバサービスマニュアル』	B-2	表 B-1 の CPU モジュールの説明に、「eXtended System Board (XSB) ごとに少なくとも 1 個の CPU モジュール (CPUM) が必要です」を追加します。XSB には、CPU、メモリ、およびオプションの I/O が含まれます。XSB は、Uni-XSB モードまたは Quad-XSB モードの 2 つの論理構成のいずれかに設定できます。Uni-XSB モードでは、M4000 サーバーは構成可能な 1 つの XSB を持ち、M5000 サーバーは個別の構成可能な 2 つの XSB を持ちます。システム構成のルールの詳細は、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバドミニストレーションガイド』を参照してください。

## M8000/M9000 サーバーのハードウェアドキュメントの更新

このセクションには、ドキュメントセットの出版後に M8000/M9000 サーバーハードウェアドキュメントで判明した最新のハードウェア情報が含まれています。

表4.3 ハードウェアの更新

タイトル	ページ番号	更新
『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル』	6-5	CMU を交換する前に、CMU 上の CPU に Capacity On Demand (COD) のライセンスが与えられているかどうかを判断します。 <a href="#">42 ページの「M8000/M9000 サーバーの場合、CPU に COD のライセンスが与えられているかどうかを判断する」</a> を参照してください。
『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要』	1-6	<p>セクション「1.1 製品概要」の「ハードウェア RAID 機能」のトピックに、次が追加されます:</p> <p>IOU オンボードデバイスカード (IOUA) に接続されている 2 台のハードディスクを単一の論理ボリュームとして構築できます。構築された論理ボリュームのミラー化構成により、データの冗長性を確保し、システムの耐障害性の向上を達成できます。</p> <p>注 - ハードウェア RAID は、RAID 対応オンボードデバイスカード (IOUA) が取り付けられた M8000/M9000 サーバーでのみサポートされます。RAID 対応 IOUA では、該当する Oracle Solaris OS パッチを適用した XSCF ファームウェアが最低限必</p>

タイトル	ページ番号	更新
		要です。この情報については、最新のプロダクトノートを参照してください。
		注 - オンボードデバイスカードが RAID 対応の場合は、showhardconf(8) コマンドでタイプ 2 が出力に表示されません。
『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』	3-22	図 3-9、端末接続シーケンスの変更を示すために、M9000 サーバー AC セクションに警告ラベルが貼付されました。
	1-18- 1-21	図 1-13 - 1-16 では、メトリック変換 3060 mm (120.5 インチ) が修正されています。
『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバインストールガイド』	3-32	図 3-28、端末接続シーケンスの変更を示すために、M9000 サーバー AC セクションに警告ラベルが貼付されました。
『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル』	18-10	手順 10、M9000 サーバー AC セクションに貼付された警告ラベルについての追加手順が追加されました。

---